

インフラメンテナンス国民会議 近畿本部 第8回フォーラム 概要版

開催概要

日 時：令和2年10月21日(水) 13:30～17:00

参加者：地方自治体：18名（大阪府・堺市・高槻市・豊能町・熊取町・三木市・三宅町・和歌山県・和歌山市）

民間企業等：40名（26社・団体）

事務局：17名（一般社団法人国土政策研究会）

国土交通省：5名（近畿地方整備局）

メンター：1名（近畿情報ワーキング長）

出席者 合計81名

討議テーマ①

テーマ名	堤防・盛土における空洞調査技術
課題提供者	大阪府・熊取町（書面のみ）
参加企業等	川崎地質株式会社、株式会社土木管理総合試験所
討議内容	<p>【 討議結果を踏まえた求める技術 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 足場のいらぬ技術（護岸側からの調査） ○ 護岸が厚い部分でも調査ができる技術（護岸側からの調査） ○ AI（判読技術） <p>【 討議結果を踏まえた求める条件 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 測定器を移動させる技術 ○ 判読技術 <p>について、どのような条件にするかを今後明確化する必要がある。</p> <p>【 討議で抽出された意見 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 空洞化探査を開発した際に、実験ができる場所（サイト）が必要 ○ 需要が多くなると新たな開発に踏み込めない

討議テーマ②

テーマ名	舗装面から対策可能な橋面防水工事の施工技術
課題提供者	熊取町、堺市、池田市、豊能町、三木市
参加企業等	株式会社アーバンパイオニア設計、大林道路株式会社、株式会社コンク、日本技術士会
討議内容	<p>【 討議結果を踏まえた求める技術 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 効果の継続性（恒久性） <p>【 討議結果を踏まえた求める条件 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小規模な橋梁でもできる技術 <p>【 討議で抽出された意見（使えそうな技術等） 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 防水層の形成とは違う技術の提案があり、一時的な対策方法として、実験をしてみる価値がある

討議テーマ③

テーマ名	路面性状調査（狭い道路で車両を使用しない調査技術）
課題提供者	三宅町
参加企業等	倉敷紡績株式会社、株式会社 Foresight、大林道路株式会社、大成ロテック株式会社、日本電気株式会社、内外構造株式会社、古河電気工業株式会社、福田道路株式会社、株式会社 IHI インフラシステム、中央復建コンサルタンツ株式会社
討議内容	<p>【 討議結果を踏まえた求める技術 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 狭い道路で調査が可能な技術 ○ 情報の共有と記録ができるシステム <p>【 討議結果を踏まえた求める条件 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ MCI に変わる調査手法の提案 ○ 基準をつくる際の単位の設定（従来は20mピッチ） <p>【 討議で抽出された意見（使えそうな技術等） 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 単位あたりのコストの提示が必要

討議テーマ④

テーマ名	道路法面保護施設（モルタル吹付）の地山との空洞化（密着度）やラス網の有無の調査技術
課題提供者	和歌山県
参加企業等	有限会社太田ジオリサーチ、一般財団法人京都技術サポートセンター、アオイ調査設計株式会社
討議内容	<p>【 討議結果を踏まえた求める技術 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ モルタル吹付の空洞、ラス網の有無を確認する技術 <p>【 討議結果を踏まえた求める条件 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 足場やロープ等の仮設備が不要であること <p>【 討議で抽出された意見（使えそうな技術等） 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 一次元表面探査 ○ 赤外線サーモグラフィ ○ 鉄筋探査

討議テーマ⑤

テーマ名	常時水没している構造物点検の効率化技術
課題提供者	大阪府・高槻市・和歌山県
参加企業等	株式会社アーバンパイオニア設計、KONO コンサル
討議内容	<p>【 討議結果を踏まえた求める技術 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 濁りに対応できるもの ○ 鮮明な写真・映像をみるための明るさの確保ができるもの ○ 栈橋の裏面も同時に点検できるもの ○ 点検位置が把握できるもの ○ 水中での非接触型の肉厚計測 <p>【 討議結果を踏まえた求める条件 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ある程度の流速に対応できるもの ○ できれば直営でできるもの <p>【 討議で抽出された意見（使えそうな技術等） 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ROV ○ 可視化技術（水中レーザー、ソナー）

討議テーマ⑥

テーマ名	流入水によるマンホール内壁面の摩耗を防止するための防護材技術
課題提供者	高槻市
参加企業等	サンユレック株式会社、株式会社ユニックス（橋守り支援センター）、一般社団法人ポリウレア普及協会、恵和株式会社
討議内容	<p>【 討議結果を踏まえた求める技術 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 洗堀防止に特化したライニング等の技術 <p>【 討議結果を踏まえた求める条件 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 止水できる路線と止水できない路線がある ○ 部分的損傷を受けた場合でも一定期間その部材が流出しないこと ○ 流入水の衝撃に長期間耐えられること <p>【 討議で抽出された意見（使えそうな技術等） 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ TPU シート工法 ○ ポリウレアコーティング技術 ○ SR レジンモルタル工法

討議テーマ⑦

テーマ名	水路クラックの簡易補修技術
課題提供者	和歌山市
参加企業等	サンユレック株式会社、大日本土木株式会社、恵和株式会社
討議内容	<p>【 討議結果を踏まえた求める技術 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 水路のクラックの穴埋めの技術 <p>【 討議結果を踏まえた求める条件 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 材料の密着性 <p>【 討議で抽出された意見（使えそうな技術等） 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 幅 3 c m までの隙間に対応可能な技術（複数の材料でハイブリッド化）

【近畿情報ワーキング長：関西大学 坂野 昌弘 教授の総評】

- ・ 本日は、管理者側のニーズ、困っていることについて共通認識を持って頂けたと思う。
- ・ 企業側は、管理者の現場の実態を聞いて、理解を頂いたと思う。
- ・ 次回のピッチイベントはシーズの絞り込みになります。
- ・ 今回のフォーラムを通じてシーズ同士についてもマッチングをしていただければありがたい。
- ・ 堤防・盛土における空洞調査技術でもあったように実証実験のできる場所を確保することも重要。
- ・ 実証実験を通じて、良い技術・良い品質のものはどんどん実用化を目指して行ってほしい。
- ・ メンテナンスは、「インフラ」が有る限り続きます。例えば日本では橋梁が約 70 万橋あるが、ほとんど市町村が管理している。しかし、予算がなく修繕ができず次々と傷痛んでいく現状で仕事はつきない。
- ・ みなさまがいろいろと取り組まれることが地域の活性化にも繋がっていくので、今後ともよろしくお願ひしたい。